



第17回全国学校保健研究大会

記 念 号

学校保健

No. 70

発行 財団法人日本学校保健会
東京都港区芝西久保明舟町10(電501-3785)

第 17 回

全国学校保健研究大会を迎えて

理事長 湯 浅 謹 而

今年の全国学校保健研究大会は久しぶりに四国地方、道後温泉で全国に知られている愛媛県で行なわれる戦後の学校保健大会の歩みがすでに20年を数えるにいたったことに、まず感慨をもつものである。最初の発足は、昭和22年学校衛生全国大会の名の下に、東京の永田町小学校においてであった。まことに素朴な内容ではあったが、すでに今日の学校保健への歩みがみられ、参加者はそれぞれ胸のふくらむ思いをしたのであった。全国大会20年の歩みを顧みる時そこには幾つかの大きな段階があった。ある時はわが国学校保健の制度確立をめざして政治的な動きへの様相を示したこともある。ある時は学校保健もまた民主化のうえにあることを明示しようとしたこともある。しかし終始変らない歩みとしてあげられるのは、すなわち、わが国学校保健の現実の発展と進歩を図りたいという念願と、その具体的な手段を求めるということに他ならない。

学校保健大会の願いと現実が、一部の学校や一部の人の人々のものであつてはならない。地方、地域、学校の著しい落差は単純な理想や科学的な指導で解決するものでもない。全国5万の小学校、中学校、高等学校において、常に明日からの歩みにささえとなる全国大会でなければならぬ。何が不変の原理であろうか。それを明らかにすることは容易ではない。しかしいつでも答えられることには、全国大会のもちかた、ありかたについて、種々の試みと経験をもつことではないだろうか。

今年、小学校、中学校、高等学校の教育課程の全国研究大会と歩みを同じくするような全国学校保健研究大会が開催される。これには、文部省と開催県のもつ経済的動向の影響もあるが、そのあるべき姿には意義があるのではないだろうか。それは学校保健も学校教育のうちにあるということからである。

学校保健全国大会を大会参加者ないしは全国関係者のものとしたというきわめて民主的な要望も強い。これについては、われわれ学校保健会の立場でとりあげていきたいと思ふ。このような立場が従来なぞ弱かつたのであろうか。それは学校保健の組織と運営の全国的な進めかたに問題があったからではないだろうか。一例をあげれば、都道府県の学校保健行政当局すなわち教育委員会所管課等は一年間に何回も全国会議をもっているのに、学校保健会の当事者による全国会議は、全国学校保健大会の機に評議員会を開いているに過ぎない。日本学校保健会が根底から全国的な歩みを進めるには、何

よりもその組織的進歩を都道府県保健会のすべてが参加することから始めなければならぬ。また、このような歩みを今年のこの大会を機に始めたいと、その一部を実行に移したのである。

全国大会についてのありかたをいふ前に、学校保健関係者の民主的な組織的な進歩を図りたいと思ふ。そこに、文部省や教育委員会に対する学校保健会の存在が考えられるのである。日本学校保健会の組織と運営を根本的に再検討し、そこから、われわれの学校保健の再出発を期したいと思ふ。そして、われわれは批評家の立場に立つことをやめて、新しい建設をめざして、この道を進みたいと思ふ。要は、全国二千万人及び児童生徒の健康を学校教育の立場に立って、われわれの考えで何とかしたいということなのである。経験と統計的観察に照らして、すでに多くの問題は明らかになっている。しかし、以上の立場を明らかに把握し、段階を追って進まなければ、結果は決してわれわれの手に帰ってこないであろう。

いささか大会以前のことを語りすぎたかも知れないが、全国大会今後の発展のために所感を述べたいたいである。

本号内容

- ◆ 全国学校保健研究大会を迎えて
- ◆ 参議院文教委員会における質疑
- ◆ 43年度文部省体育局の予算要求
- ◆ 42年度健康診断の計測統計
- ◆ チェコの学校保健その他
- ◆ 全国学校保健団体連絡協議会議題
- ◆ 同参加者氏名

参院文教委員会における

千葉千代世参院議員の質疑

日本学校保健会の運営
全国学校保健大会のあり方

答弁者 文部省 体育局長 赤石清 悦氏
参考人 日本学校保健会常務理事 可児重一氏



千葉千代世氏

去る6月27日、参院文教委員会において、千葉千代世議員から、本会ならびに全国学校保健大会の運営その他に関する質疑が行なわれたが、この種の問題が国会で取り上げられたのは初めてのことで、その意義は高く評価されるべきであり、その概要を紹介する。

○千葉氏 日本学校保健会と文部省との関係はどうなっているか。
○体育局長 特に密接な関係はなく補助金も出ていない。学校保健大会その他の事業を共同主催している。
○千葉氏 事業計画等について文部省が指導するか。
○局長 求めがあれば、文部省の考え方を述べている。
○千葉氏 大会に対する補助金は今まで10万円であったのが、今回は100万円になったというが、どの費目か
○局長 今までは支出委任という形であったが、今回初めて全国学校保健研究大会費という柱を立てた。
○千葉氏 大会の出席には今回は会費千三百円とっているが、なぜか。

○可児参考人 経費は全額主催者側でもちたいのであるが、非常に多額を要するので、やむなく会費をとっている。従来大会ごとに、文部省の補助を多くしてほしいという要望が出され、陳情を行なってきた。今回ようやく増額をみたわけである。
○千葉氏 大会出席者の都道府県別割当てはあれでよいか。少ない県は8名だというのが事実か。
○可児氏 初めの頃は出席者数の割当てということではなかった。段々と出席者が多くなり、静岡大会の頃から制限の必要がおこり、それまでの4、5年間の出席者の平均によって割当てを行なった。
○千葉氏 今回の大会では、8領域49班もの数になっていて、そこへ少数のものが出席して、しかも希望する班にはいれないとして、現場の活動が反映できるか。
○可児氏 初めの頃は、全体協議会と職域部会とでやっていたが、出席者が多くなって、意見の交換が十分に行なわれなくなった。そこで分科会の形をとるようになった。参加者

に十分の満足を与えられるよう、検討する必要がある。
○文部省の考えはどうか。
○局長 いろいろ考えるべき点があると思われるが、予算関係などもあるので、各機関や日本学校保健会ともはかりたい。
○千葉氏 大会の終りに、1時間ばかり領域別研究協議があるが、それで全体的な研究協議がまとまるのかまた各職域の要望をまとめる場はどこにあるのか。
○可児氏 大会を重ねることに改善を加えてきたので、今回はまた新しい形をとることにした。職域部会はそれぞれ自主的にもち、そこで要望をまとめることになっている。
○千葉氏 職域部会は大事であると思うが、文部省の考えはどうか。
○局長 今回は予算もふやし研究協議を一段と深く掘り下げようということ、で、班別研究に重点をおいた。
○千葉氏 日本学校保健会は経常費について考える必要があるのではないか。たとえば理事会、評議員会、常務理事会に出席する役員は、旅費が出ないので自弁しているが、旅費の出せる人でなければ役員になれないではないか。
役員の組織についても、学校医が大多数をしめ中心になっている。新しい学校保健の考えがはいっていないではないか。
部会の規程をみると、部会は調査研究の委員会にすぎない。従って部会は自主的に活動することもできない。代表者を出すこともできない。医歯薬三師の方はそれぞれ独立の会をもっているからよいが、独立の会をもたなくて、日本学校保健会

の一部会しかもたない養護教員たちは現場の声をどこに反映したらよいのか。部会の運営はそれでよいのか。
○可児氏 戦前は、日本学校保健会の前身である帝国学校衛生会も、次の日本学校衛生会も、ほとんど校医の方で組織されていた。戦後は各職域から役員が出ることになった。しかしまだ十分に各職域のバランスがとられていない。
役員は従来会長一任の形で選任された。従来と比べれば非常に民主的に行なわれたが、それでも校医の方が多くなった。この点は今後検討の要がある。
部会については、規定では委員会のようなもので、問題があったとき活動するというわけで、だから自主的な活動の余地がない。しかし現状では、学校保健会の中で部会が一番活動している。現在の部会の規定は現状にそわない。そこで部会の規定を現状にそように改正したいということが数年前から役員の間で問題になっている。
最後に一つだけ加えさせて頂きたい。それは、どうも学校保健というもの的重要性が一般に認められていないということである。軽視されている。これは非常に遺憾なことである。その原因の一つとして、教員免許取得の単位の中に、学校保健が必須になっていないことがあげられる。小学校で学級担任の先生が、学校保健を研究していないということ、非常に欠点がある。学校保健を必須にする点につき、文教委員の先生方にお骨折りを願いたい。



完全乳化
効力安定

学童の保健栄養剤

カワイ肝油ドロップ

製造発売元

河合製薬株式会社

東京都中野区新井2-51-1

昭和 43 年度 文 部 省 学校保健関係 予算要求額 (案)

事 項	要 求 額	前 年 度 前 算	前 年 度 前 比 △減	要 求 の 要 概
学校保健及び学校安全の振興	6,270	2,997	3,273	注1
日本学校保健会補助	2,000	0	2,000	注2
要保護及び準要保護児童生徒 援助費補助(医療費)	183,848	198,372	△14,524	注3
へき地学校設備等整備費補助	49,315	25,750	23,565	注4
へき地学校保健管理費補助	18,900	15,000	3,900	注5
児童生徒の循環器疾患特別管 理費補助	11,760	0	11,760	
教員健康診断費補助	36,133	24,231	11,902	注6
学校環境衛生維持改善設備等 整備費補助	111,000	0	111,000	注7
交通安全指導の研究推進	1,852	1,852	0	注8
交通安全教育センター補助	58,592	0	58,592	注9
日本学校安全会補助	402,831	268,550	134,281	
その他				
合 計	883,625	553,465	330,169	

昭和43年度文部省体育局学校保健関係予算要求額は別表のとおりである。これによると新要求または大増額を示すものが多く、体育局の抱負をうかがうことができる。赤石体育局長のもと、田学校保健課長、安田課長補佐の苦心のあとが思われるのである。来年度政府予算の編成については大蔵省が極度の堅実方針を持っているとのことであるが、学校保健関係の要求貫徹については、当局の格段の努力を希望するしだいであり、また学校保健関係者全員の熱望するところである。

次に要求の概要について、文部省学校保健課で発表されたところを紹介する。

〔注1〕 ①養護教諭初任者講習会 ②学校保健・学校安全研究協議会、③「わが国学校保健史」の編集(2カ年計画)

④学校環境衛生講習会〔注2〕 研修会・学校保健研究紀要・調査研究・研究助成・ゼミナール〔注3〕 へき地特別措置分を加算する児童生徒数および被患者減少のための減〔注4〕 学校風呂整備費・給水施設整備費〔注5〕 健康診断および健康相談・学校環境衛生検査

〔注6〕 結核に関する健康診断に要する経費(厚生省と合わせる)〔注7〕 ①環境衛生モデル校指定〔注8〕 ②研究協議会・指導者講習会〔注9〕 人口5万以上の都市に1カ所設置

体育局全体の予算概要

体育局は、体育課、学校保健課、給食課の3課であるが、体育局各課の概算要求額について、文部広報に発表するところを抜き書き的に紹介すると次のようである。要求総額は一九三億六、五〇〇万円で、昭和42年度に比べ、八億九、三〇〇万円(71%)増となっている。

▽体育・スポーツの振興 体育施設整備、スポーツ団体・組織の育成と指導者の養成、体育・スポーツの国際交流等を重点として四五億二、四〇〇万円要求。日本体育協会補助五、五〇〇万円。

▽学校保健、学校安全の改善充実 別項のとおり八億八、三〇〇万円要求。日本学校保健会補助という新しい柱を立てて、二〇〇万円要求。本会对する補助金は、昭和25年頃までは予算化されていたのが、その後中断され、今回18年目に復活されたわけである。実に画期的な要求での成立が待望される次第である。

また新規に、心臓疾患を早期に発見し、事後措置を適切に行なうための検診車購入費補助一、二〇〇万円の要求や、学校環境衛生の改善推進を目的とするモデル校指定のための一億一千万円の要求や、児童の交通安全事故防止対策の一環としての交通安全教育センター設置費補助五、九〇〇万円の要求等は、極めて前進的な意図を見せるものである。


▽学校給食の普及充実 父兄負担の軽減、給食施設の整備、栄養職員設置費補助等を重点に一二三億八二〇〇万円要求。日本学校給食会補助九四〇〇万円要求。

よい子のビタミン

総合ビタミン・ミネラル剤

小粒 ポポン-S

シオノギ製薬



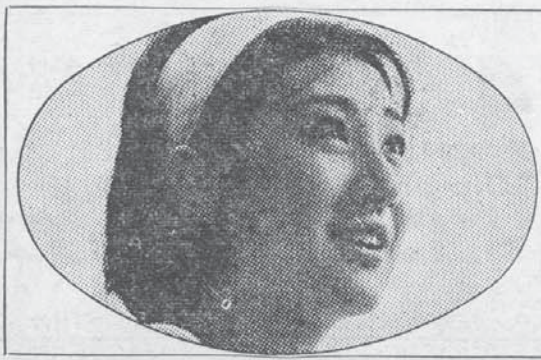
ぜひご購読を 隔月発行

本紙は、全国の公立小中高校や教委には無料配布しているものであるが、医歯薬その他個人の方々にぜひご購読をお願いいたします。30名以上一括発送の場合は送料の意味で3割引いたします。購読料は少部数の場合は15円切手代用で差支えありません。

購読料 一ケ年(6回発行) 200円

原稿募集

学校や学校保健会のニュースを歓迎します。本紙は、地方の学校保健会相互間または本会との連絡をはかることを重大な使命として、いのでとくに保健会のニュースをお願いたします。学校保健に関する研究随想等も歓迎します。掲載分には薄謝を呈します。



ブルーデーにもはれやかな笑顔をお約束します

- モレ・ニジミの心配がない。
- 水に解けやすくなっています。
- 日常活動はもちろんスポーツも大丈夫。
- ソフトな肌ざわり。

さわやかなブルーデー (生理相談券つき)

エミー-W ナプキン

家庭用(薄手30コ入)・化粧箱(厚手8コ・薄手7コ入)



昭 和 4 2 年 度

学 校 保 健 統 計 調 査 の 結 果

昭 和 4 2 年 10 月 文 部 省 速 報

結 果 の 概 要

1. 前年度との体位比較 本年度の児童生徒の体位を、昨年度と比較してみると、若干の年齢を除けば、ほとんどの年齢において体位は向上している。そのうちで最も向上のめだっているのは、男子では小学校高学年から中学生までの年齢層における身長および体重であり、女子は10歳から12歳までの者の身長である。

2. 男女の体位の差 身長体重とも3歳から9歳までは男子がまさり、10歳になると女子が追い越し、身長では12歳まで、体重では13歳まで女子がまさっている。その後はふたたび身長体重とも男子がまさり、特に15歳以上の身長については、その差も急に大きくなっている。なお男女差の最も少ない年齢は、身長体重とも9歳である。

3. 都道府県別の体位差 中学3年生(14歳)について、都道府県別の平均値を1位から9位までを高いグループとし、反対に低い順に1位から9位までを低いグループとして比較すると、身長で男女とも高いグループに属するのは、東京・神奈川・石川・滋賀・京都・大阪の6都府県であり、低いグループに属するのは、鹿児島・宮崎・佐賀・長崎・福島・愛媛・高知の7県である。また同様に体重についてみると、重いグループに属するのは東京・富山・石川・宮城・秋田の5都府県であり、軽いグループに属するのは、鹿児島・宮崎・佐賀・長崎・山梨・高根・熊本の7県である。

結 果 の 内 容

1. 昭和41年度との体位の比較

児童生徒の身長体重などは全般的に従前に引き続いて伸び続けている。このうち男女とも小学校高学年から中学校にかけて身長(男子で0.5cm, 女子で0.4cm)体重(男子で0.4kg, 女子で0.2kg)ともその増加がやや目立っている。また昭和41年度にくらべて増加の割合のいちぢるしいものとして、高等学校男子の身長(昭和41年度0.2cm, 昭和42年度0.3cm) 高等学校女子の体重(昭和41年度0.2kg, 昭和42年度0.4kg)が見られる。

2. 明治33年当時と6歳および11歳男女の身長の比較

男子の6歳では68cm(明治33年107.0cm, 昭和42年113.8cm) 11歳では11.6cm(明治33年127.9cm, 昭和42年139.5cm)の増加が見られる。また女子の6歳では8.1cm(明治33年104.8cm, 昭和42年112.9cm) 11歳では13.5cm(明治33年127.9cm, 昭和42年141.4cm)の増加が見られる。

3. 明治33年当時の発育交叉年齢の比較

女子が男子の体位を上回る所謂発育交叉年齢について見ると身長では明治33年には、交叉は明瞭でなかったものが昭和42年では明らかに10歳から12歳の3カ年間に認められる。また体重については、明治33年には12歳から14歳に見られたものが、昭和42年では10歳から13歳の4年間に認められる。このように発育交叉年齢は約2カ年早く見られるようになった。

4. 最大発育年齢に見られる男女の差

身長では男子は12歳から13歳になるときが最大で7.1cm増加し女子では10歳から11歳になるときが最大で6.4cm増加している。また体重では男子は13歳から14歳になるときが最大で5.7kg増加し、女子では11歳から12歳になるときが最大で5.0kg増加している。このように最大発育年齢は女子は男子より身長・体重とも2年早く見られる。

5. 身長・体重の地域差とその程度

男女とも大都市を含む府県でややすぐれ九州地域では劣っているものが多い。次に14歳の男女につき都道府県別にみると身長では男子で高いグループは東京161.2cm, 神奈川160.7cm, 兵庫160.4cm, 低いグループは鹿児島156.1cm, 宮崎156.8cm, 佐賀157.5cmで、最高と最低の差は5.1cmであり、女子では高いグループは京都154.5cm 兵庫154.2cm, 長野154.1cm, 低いグループは鹿児島151.4cm, 宮崎152.0cm, 長崎152.1cmで、最高と最低の差は3.1cmである。また、体重では男子で高いグループは東京50.4kg, 神奈川49.7kg, 青森49.2kg, 低いグループは鹿児島45.9kg, 宮崎46.0kg, 佐賀46.3kgで、最高と最低の差は4.5kgであり、女子では、高いグループは京都48.6kg, 長野48.2kg, 新潟48.0kg, 低いグループでは鹿児島45.6kg, 佐賀45.7kg, 宮崎46.1kgで、最高と最低の差は3.0kgである。

脳の働きをよくする

—《脳代謝促進剤》—

ギヤバ製剤 **ガンマロン**
ガンマー・アミノ酪酸 錠・液・注 GAMMALON純良医薬  第一製薬1度に
4種類の尿検査ができる!尿のpH・糖・蛋白・潜血に対する
“Dip and Read”方式試験紙

ヘマコンビスティックス

販売元
三共株式会社製造元
AMES Co., Inc.

児童生徒体位の平均値と対前年度差

区 分	身 長		体 重		胸 囲		座 高				
	平均値	前年度差	平均値	前年度差	平均値	前年度差	平均値	前年度差			
	cm	cm	kg	kg	cm	cm	cm	cm			
男	幼稚園	3 歳	98.0	0.2	15.3	0.0	53.1	0.0	56.7	0.2	
		4	103.4	0.0	16.6	0.0	54.2	0.0	59.1	0.0	
		5	108.9	0.1	18.2	0.0	55.8	0.1	61.9	0.1	
	小学校	6 歳	113.8	0.2	19.8	0.1	56.9	0.0	64.2	0.0	
		7	119.3	0.2	21.9	0.0	58.8	-0.1	66.7	0.0	
		8	124.5	0.2	24.4	0.1	61.0	0.2	69.1	0.0	
		9	129.6	0.5	26.9	0.2	63.1	0.1	71.3	0.1	
		10	134.3	0.3	29.8	0.3	65.4	0.3	73.3	0.0	
	中学校	11	139.5	0.5	33.0	0.4	67.6	0.2	75.5	0.1	
		12 歳	145.7	0.5	37.4	0.4	70.3	0.2	78.6	0.1	
		13	152.8	0.4	42.7	0.2	74.1	0.2	82.1	0.1	
		14	159.2	0.5	48.4	0.4	78.2	0.3	85.5	0.1	
	高等学校	15 歳	164.1	0.3	53.3	0.3	81.6	0.1	88.2	0.0	
		16	166.2	0.3	56.0	0.1	84.0	0.1	89.4	-0.1	
		17	167.2	0.2	57.9	0.3	85.6	0.2	90.0	0.0	
		18	166.4	0.3	57.9	0.2	85.9	0.1	89.8	0.0	
	女	幼稚園	3 歳	96.8	0.1	14.9	0.0	51.8	-0.1	55.9	0.0
			4	102.3	0.0	16.1	-0.1	52.9	0.0	58.4	0.0
5			107.9	0.2	17.8	0.1	54.3	0.0	61.2	0.1	
小学校		6 歳	112.9	0.2	19.3	0.1	55.4	0.1	63.7	0.1	
		7	118.3	0.2	21.4	0.1	57.3	0.1	66.3	0.1	
		8	123.7	0.3	23.9	0.2	59.3	0.1	68.7	0.0	
		9	129.1	0.3	26.7	0.2	61.5	0.1	71.1	0.0	
		10	135.0	0.4	30.1	0.3	64.4	0.3	74.0	0.2	
中学校		11	141.4	0.4	34.5	0.4	67.9	0.2	77.1	0.1	
		12 歳	147.2	0.4	39.5	0.3	72.1	0.3	80.5	0.1	
		13	151.0	0.3	43.9	0.3	75.6	0.4	82.7	0.0	
		14	153.1	0.3	47.2	0.4	78.0	0.2	84.0	0.0	
高等学校		15 歳	154.5	0.2	49.5	0.4	79.8	0.2	84.8	0.0	
		16	155.0	0.3	51.0	0.4	81.0	0.2	85.1	0.0	
		17	155.2	0.2	51.6	0.3	81.6	0.1	85.1	0.0	
		18	154.2	-0.2	51.7	0.0	82.4	0.0	84.6	-0.1	

(注) 1. 年齢は4月1日現在の満年齢である。「前年度差」とは昭和42年度の平均値から昭和41年度の平均値を引いたものである。
 2. これは昭和42年4月に行なわれた定期健康診断の計測検査の結果である。

強力な殺菌、消毒、漂白、脱臭剤

日本学校保健会御推薦品



日曹ハイクロン

厚生省指定法定消毒薬
食品添加物合成殺菌料

- 主な用途
- プールの水の消毒と藻の発生防止
 - プールの底壁、便器、脱衣室の床の消毒
 - 簡易水道の水の消毒

- 貯水池の藻の発生防止
- 学校のプール、食堂、食器、汚水溝等の消毒、殺菌、脱臭

日本曹達株式会社

本 社 東京都千代田区大手町2の4 (211) 2111
大阪支店 大阪市東区北浜2丁目9 (203) 3151

学校保健団体連絡協議会協議題

日時 昭和42年11月24日・26日 会場 愛媛県庁第2別館大会議室

協 議 題

提 案 者

I 保健管理・教育指導に関するもの

健康観察及び健康診断の方法とその結果の処理。
 児童生徒の予防接種を効果的に実施するにはどうしたらよいか。
 要準児童生徒援助費補助金（医療費）の交通費を増額すること。
 へき地巡回診療に対する国庫補助の大巾増額を要求する。
 成人病検診車・精神障害対策に対し、国庫補助制度を制定する。
 就学時の健康診断を効果的に実施するにはどうしたらよいか。
 交通安全教育の強化充実をはかる方途。
 学校における性教育について、指導領域および指導内容の明確化をはかられたい。
 学校環境衛生検査器具整備補助金を継続するよう要望する。

岡山県
 茨城県
 鹿児島県
 長崎県
 茨城県, 京都府
 茨城県
 千葉茨

 東京都
 茨城県

II 職域に関するもの

教育職員免許法を改正し、学校保健最低2単位の修得を普通免許状取得の基礎資格とされたい。
 学校保健法施行規則第22条の3第1項ただし書を削除し保健主事の職務を法文化されたい。
 学校教育法第103条を削除し、養護教諭の職務を法文化されたい。
 国立大学に4年制の養護教諭養成課程の設置を要望する。
 日本学校保健会の養護教員部会が全国養護教員会を結成する事情。
 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の待遇改善を要望する。
 学校医の定員を改め、眼科・耳鼻科の専門医を加えてほしい。
 小・中学校の学校医も教職員と同様に旅費支給（県費）の対象者にしてほしい。

埼玉県 渡辺金次郎

 埼玉県, 石川県
 埼玉県, 兵庫県, 秋田県, 千葉県, 鹿児島県, 渡辺金次郎
 石川県, 千葉たつ, 堀内フミ
 福井県
 秋田県
 兵庫県
 福井県

III 学校保健会・同部会に関するもの

全国大会のあり方について文部省と日本学校保健会及び主催県と不離一体の運営を要望する。
 日本学校保健会と都道府県市の各学校保健会との組織の統一をはかり、研修計画ならびに連絡の緊密化を進められたい。
 日本学校保健会の事業計画を充実させるためにどうすべきか。
 日本学校保健会において財源確保の上、都道府県学校保健会に対する負担金の軽減または免除をされたい。
 各部会の活動を活発にするための施策を講ぜられたい。

村上賢三

 皆川尚常
 愛媛県
 富山県

 岩尾泰次郎

歯をカタくする新〈フッソ歯磨〉

- ★安定性のたかいモノフロを配合。歯質を強くして、ムシ歯を強力にふせぎます
- ★スカットした味の異色のフッソ歯磨です



ダイヤフッソライオン

90グラム 120円

小中学生にはジュニア・ダイヤ

学校保健団体連絡協議会 参加者氏名

日時 昭和42年11月24日・26日 会場 愛媛県庁第2別館大会議室

都道府県市	氏名	役職名	都道府県市	氏名	役職名
秋田県	小泉重憲	県学校保健会長	東京都	湯浅謹而	日本学校保健会理事長
	藤原慶一郎	同 理事		歌代吉雄	同 理事
	中村正二	同 幹事		小栗一好	同 同 同
茨城県	古沢皓	大津小学校医		塚田治作	同 同 同
	佐藤善介	岩間一小学校薬剤師		岩尾泰次郎	同 同 同
埼玉県	高橋貞助	県学校保健会長		斎藤宗久	同 同 同 監事
	太田俊夫	県教委保健課長		米島正一	同 同 同
	川岸幹男	同 係長		向井喜男	同 同 同 理事
東京都	阿部敏武	東京都教委体育部長		渡部重徳	同 同 同 監事
	久保田信夫	同 保健課係長		亀沢シズエ	同 同 同 理事
	末和夫	同 同 係長		可児重一	同 同 同
	高柳宏	同 同 主事		永山芳男	同 同 同 同 監事
	前田昌彦	同 同 主事		久保正憲	同 同 同 同 監事
	大橋良三	中央区教委 主事		千葉たつ	同 同 同 同 理事
	三石辰雄	北区教委学務課長		堀内フミ	同 同 同 同 監事
	橋本麗子	同 主事	青森県	渡辺金次郎	同 同 同 同 監事
	望月桂吉	荒川区教委主事	室城県	小塚喜四郎	同 同 同 同 同
	湯本芳雄	都学校薬剤師会参与	神奈川県	青山松次	同 同 同 同 同
	府川俊	同 常任理事	三重県	山本淳次郎	同 同 同 同 同
兵庫県	井上正三	県学校保健会長	石川県	村上賢三	同 同 同 同 同
	大森一夫	県教委学校保健課主事	兵庫県	巨田泰信	同 同 同 同 同
鳥取県	高垣昭信	県教委体育保健課主事	京都市	奥岩吉	同 同 同 同 同
岡山県	本城明朗	山陽小学校医	広島県	皆川尚常	同 同 同 同 同
福岡県	朔東民	県学校保健会長	愛媛県	門屋賢一	同 同 同 同 同
	大庭寛	県教委保健課長	熊本県	小田一昭	同 同 同 同 同
	中山弘道	福岡市学校保健会長	佐賀県	毛利源三	同 同 同 同 同
大分県	佐藤昌治	県学校保健会理事	神奈川県	五十嵐貞蔵	同 同 同 同 同
名古屋市	上野正	市教委体育保健課長	大阪市	川村敏行	同 同 同 同 同
大阪市	住吉薫	市学校保健会事務局次長	千葉県	山中正一	同 同 同 同 同
	白川修	同 主事			

P-1

お子さまを強く大きく!

パンビタンペレ[®]
パンビタンペレ[®]
チョコレート



しゃぶっているだけで、お子さまの成長に必要なビタミンが補給できます

他に...ご家族の健康に 強カパンビタンA・忙しい方に 強カパンビタンゴールド・赤ちゃんの成長に パンビタンA液